

教材・支援機器活用実践事例

【劇を通して、自己表現を広げることを学ぶための指導】

	実施年度	平成29年度
授業について	教科名等	国語科
	単元・題材名	「自分の気持ちを伝えてみよう ～5匹のやぎのがらがらどん～」
	授業における教師のねらい	○要求を表す言葉を知ることができるように、教材や授業の展開を工夫する。 ○自分のせりふを言葉で伝えることができるように、学習内容や教材を工夫する。
	授業における子どもの目標	○ペープサートに注目し、せりふを聞いたり、教師と一緒に考えたりすることで、要求を表す言葉を知ることができる。 ○劇の中で、教師や友達に、自分の気持ちをせりふで言ったり、考えたりすることができる。
子どもについて	学校・学級・学年	特別支援学校 小学部 通常の学級 中学年
	対象の障がい	知的障がい
	授業形態	小集団学習
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中での簡単なやりとりができる。自分から教師や友達にかかわる姿や、要求や気持ちを伝えたい意欲が増えてきた。しかし、表現する言葉を知らずに諦めてしまったり、注意獲得行動で表現したりする姿が見られる。 ・絵本や紙芝居を好む児童もいるが、集中し続けることが難しい児童もいる。4月から継続的に行っている音楽付きのパネルシアターは、全員が好んでおり、せりふを真似したり、操作して遊んだりすることが増えてきた。
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	「5匹のやぎのがらがらどん」(ペープサート、劇セット)
	活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・劇のあらすじは、ペープサートを使用することで視覚的に楽しみながら、せりふと動きを知ることができるようにする。 ・最初は教師がペープサートを操作し、段階的に児童が操作したり、せりふを言ったりする場面を設けることで、劇遊びへの期待感を高めていけるようにする。 ・気持ちを伝えることに恥じらいがある児童でも、劇の中でせりふとして気持ちを伝えることで、自然に表現できるようにする。 ・要求を言葉で伝えると橋を渡ることができるという場面を設けることで、思いが伝わったと感じることができ、わかりやすい成功体験へと繋げる。
	授業における支援 ・教材の配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ペープサートや劇遊びに長時間集中することが難しい児童でも、楽しく参加できるように、「かったん こっとな かたかたとん」という橋を渡る効果音を繰り返し取り入れたり、役によって声色を変えたりする。 ・要求の言葉を視覚的に知ることができるように、せりふを文字で提示する。 ・安心して劇遊びに取り組むことができるように、初めて劇のセットを提示した時に、自由に触れて遊ぶ時間を設ける。 ・劇遊びを通して自分の思いが伝わる成功体験を積むことができるように、せりふが出てこない場合には、教師の言葉を真似て言うように促したり、文字で提示したりする。
	子どもの変容や評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ペープサートを毎時間見たことで、集中し続けることが難しい児童も、自分から「かったん こっとな…」のせりふを言ったり、物語を楽しみながら、場面に応じたりアクションをしたりする姿が増えた。 ・自分たちで劇のセットを準備し、意欲的に劇遊びに取り組み、トロール役の教師の質問に対して自分でせりふを考えて言うことができるようになった。 ・実生活において「～したいです。」「～してください。」などと自分の要求や気持ちを言葉で伝えることが増えた。

